

令和3年度「ユニバーサルデザイン教育」の取組について

宇部フロンティア大学附属幼稚園

本園では、令和2年度から、宇部市教育委員会が主管する「ユニバーサルデザイン教育推進事業」の指定を受け、その推進に取り組んでいます。

1 「ユニバーサルデザイン教育」とは

「ユニバーサルデザイン教育」とは、配慮の必要な園児であるかないかにかかわらず、すべての教師がすべての園児に対して日常生活の中で支援や環境の構成などの配慮を行うことを意味します。

本園では「ユニバーサルデザイン教育」に係る教職員研修に取り組むとともに、「保育のユニバーサルデザイン化」及び「教室環境のユニバーサルデザイン化」を推進していきます。

2 目標

すべての園児にとって生活しやすい学級づくりを整備し、すべての園児が集中して活動できるようにする。

3 教育のユニバーサルデザイン化のための6つのポイント

本園では、教育のユニバーサルデザイン化に必要なポイントとして、以下の6点を挙げて、取組を進めてきました。

- | | | |
|---------|---------|------------|
| ①場の構造化 | ②ルールの確立 | ③指示の出し方 |
| ④刺激への配慮 | ⑤生活の見通し | ⑥集中・注目のさせ方 |

その中でも、令和3年度は、①場の構造化、②ルールの確立、③指示の出し方について、教師の指導方法、教室環境の整備の改善に努めるとともに、④刺激への配慮、⑤生活の見通し、⑥集中・注目のさせ方についても実践してきました。

4 今年度の具体的な取組

(1) 教職員研修の実施

- ・6月2日に山口総合支援学校から講師をお招きして、「特別支援教育」「発達障害」「インクルーシブ教育」等について実践的な教職員研修を実施しました。
- ・8月3日に宇部市ユニバーサルデザイン教育推進研修会（兼 第3回校内コーディネーター研修会）に ZOOMで参加し、園内研修を行いました。
- ・1月13日に山口県乳幼児の育ちと学び支援センター主催の特別支援教育・保育専門研修会に ZOOMで参加し、園内研修を行いました。



教職員研修会（6月2日）

(2) 日常の保育実践

「教育のユニバーサルデザイン化」に必要な6つのポイントのうち、今年度は、特に、①場の構造化、②ルールの確立、③指示の出し方について、教師の指導方法、教室環境の整備の改善に努めるとともに、④刺激への配慮、⑤生活の見通し、⑥集中・注目のさせ方についても実践してきました。

①場の構造化

◆片付け・整理整頓

保育室の玩具や砂場の道具等について、片付けのルールを明確化するとともに、「片づけの仕方」を視覚的な情報で示すことで、満3歳児から年長児まで、どの子も自分で仕分けして、教師が手伝うこともなく片付けることができるようになってきました。

トイレのスリッパの整頓については、なかなか習慣化できませんでしたが、2学期後半からはほとんどの子が気を付けるようになってきました。



トイレのスリッパそろえ



砂場の道具の片付け

②ルールの確立

◆声の大きさの調整

音に過敏な子がいるので、保育室での「声のおおきさ」を動物のイラストで表示し、室内ではネズミの声かウサギの声で話すルールを意識させています。新型コロナウイルス感染症対策のためにも、室内で大声を出さないことに取り組んでいます。



室内掲示

◆廊下や室内での過ごし方

保育室や廊下での衝突事故を防ぐために、「しずかにんじゃ」を合言葉にして、室内や廊下では走らないルールを意識させています。集団で移動するときには、2列で一言もしゃべらずに移動しています。



しずかにんじゃ

③指示の出し方（シンプル・クリア・ビジュアル）

◆わかりやすい指示

話をする前に、まず、教師の方に集中するよう注意を促します。そして、一度にたくさんの指示を出すと混乱するので、「指示は短く、一つの指示で一つの内容」を原則とすることを徹底しています。

また、「しっかり」「ちゃんと」などの曖昧な言い方をしないで、「先生のお顔を見ながらお話を聞きましょう」「2列に並んで、『しずかにんじゃ』でホールに行きましょう」など、どの子にも理解できるように具体的に指示を出すようにしています。

◆視覚的な情報による指示

お話をする時は、できるだけ具体物を用意し、具体的で簡潔な言葉で次の行動を知らせます。また、「時計がゼロになるまで一生懸命練習しましょう」「時計の色がなくなったら終わりにしましょう」など、タイマーを活用して時間を視覚的に示し、見通しをもたせるようにしています。



年長児用タイマー

④刺激への配慮

◆保育室の環境の整備

unnecessary 掲示を取り除く、掲示物を乱雑に貼らないなどに留意して、保育室の前面を意識的にすっきりさせるようにしています。

また、音の刺激に対して過敏な子がいるので、室内での声の大きさについての指導を行うとともに、部屋の騒音防止のために防音マットを敷いて、床の音の軽減に努めています。

◆クールダウンスペース

キッズテントを各保育室に設置し、クールダウンスペースとして活用できるようにしました。特に発達障害のある子は自分の感情のコントロールがうまくできないため、ある程度周りの刺激を遮断できる狭いスペースで、落ち着いてから次の活動に取り組むようにしています。



クールダウンスペース

⑤生活の見通し

今日の予定やこれから行う活動について、事前に話をするよう心がけています。また、作業時間などもタイムタイマーで残り時間を視覚的に示すことにより、次の活動に移る時にパニックを起こすことが少なくなりました。次年度は、一日の流れや作業工程などの提示の工夫について研修を深めていきたいと思います。



年中・年少児用タイマー

⑥集中・注目のさせ方

◆絵カードの活用

発達障害があり、しゃべることが苦手でコミュニケーションが取りにくい園児に「絵カード」を活用することにより、少しずつコミュニケーションが取れるようになってきました。給食前に座って待てなかった年少児も、担任と副担任が根気強く絵カードで示すことにより、座って待てることが多くなりました。また、トイレトレーニングにも活用しています。



絵カードの例

5 来年度に向けて

- 今年度は、外部講師を招いて、大変有意義な特別支援教育研修会を実施することができました。すべての教職員がユニバーサルデザイン教育の理念に基づいて実践できるよう、引き続き研修を深めていきたいと思います。
- 新型コロナウイルス感染症の影響で、令和3年度も公開保育については実施を見送りました。今後も成果を発表・披露する場について検討していきたいと思います。
- 令和4年度は、3年間の指定のまとめとして、各学年の実践事例についても取りまとめていきたいと思います。